

第137回「防災まちづくり談義の会」レポート

(防災塾・だるま・ホームページ: <http://darumajin.sakura.ne.jp/>)

平成28年11月

日時: 2016年11月25日(金) 18:00-19:30 場所: 神奈川大学 24号館 310号室

◆ 主催: 防災塾・だるま 司会: 増田佳恵 記録: 紅林敏行

◆ 談義の会参加者: 会員20名 一般6名(含む講師) 計26名(敬称略)



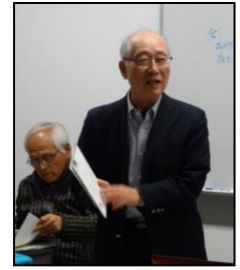
左(講演の風景)



右(横浜市の地形の写真)



加藤さん(講師)

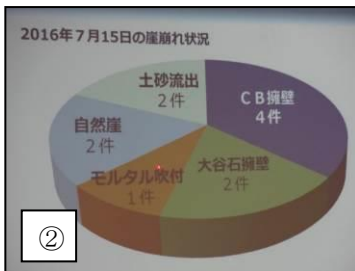


池田副塾長(挨拶)

話題: 『横浜市のがけ地総合対策』

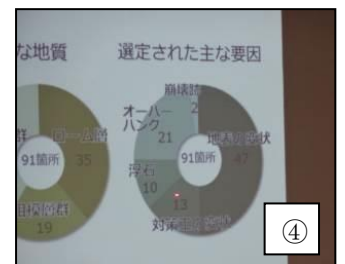
講師: 加藤暢一氏(横浜市建築局建築防災課 かけ・狭あい担当課長)

「横浜の市域の約60%が丘陵地」、「近年の大雨等による土砂災害」、「横浜市のがけ地総合対策」等について解り易く講演。 <<あなたの宅地、崖地や擁壁は安全ですか?>> すぐに確認を!



②

1. 開港以来、丘陵地に市街地を形成 かけ地に近接して建てられている住宅や、造成等によるひな壇状の住宅が多くみられる。(①の写真)
2. 宅地造成等規制法施行(1962年) 「宅地造成に伴う崖崩れ又は土砂の流出による災害の防止のため必要な規制を行う(第1条)」 『宅地造成工事規制区域』市域の約63%を指定
3. かけ崩れ件数が減少する状況が見られない! 2005~2012年崖崩れ:自然崖76%,人工崖24% 風水害浸食等により崩れやすい箇所が継続して発生
4. 2016年7月15日台風豪雨による崖崩れ状況 CB擁壁の崩壊4件、大谷石擁壁の崩壊2件、自然崖の崩壊2件等 計11件(②の写真)
5. 高さ5m以上かつ傾斜度30度以上の崖地 約9,800箇所
2014年~2017年に『かけ地現地調査』(崖地加付作成) 『土砂災害警戒区域』2,432区域(ハザードマップ)開示
⇒所有者等からの要望で区域から外すことは無い。
⇒市街化調整区域の担当所管とも情報共有。



④



③



⑤

6. 『土砂災害警戒情報』の発表とともに、『即時避難勧告』を発令する崖地を選定 『かけ地現地調査』の結果をもとに崖地を抽出 2016年11月現在12区内97箇所を選定 『かけ地加付』を所有者、近接者に開示、崖地改善、即時避難誘導等を各区役所にて対応。 参考:選定された主な要因(地表の変状47箇所、対策工の変状13箇所等) (④の写真) ⇒横浜市が所有する高さ5m未満の崖地も調査することを各部署に展開。 ⇒『崖のはなし』ポスター等で周知。選定かけ地を立て看板等で注意喚起することなども検討。
7. 『急傾斜地崩壊防止工事』(県が実施、条件を満たす自然崖地は年々増加傾向) 被害想定5戸以上等の条件を満たす自然崖に対策施設(鉄筋コンクリート擁壁等)を整備(③の写真)
8. 『被災宅地危険度判定』(被災宅地危険度判定土) 安全かどうか識別できるように3種類(赤色:危険宅地、黄色:要注意宅地、青色:調査済宅地)の判定カラーを見えやすい場所に表示(⑤の熊本地震の写真(赤色:2,753宅地))
9. 今後の取り組み 崖地の民事を含む相談対応・紛争処理へのアドバイザー(弁護士、地盤の専門家)



増田さん(司会)

●次回(第138回)案内

- ・日時: 2016年12月16日(金) 16時~17時30分
- ・会場: 神奈川大学24号館310号室
- ・話題: 『KU東北ボランティア駅伝』報告
- ・講師: 照井涼香氏 若原光弘氏(神奈川大学・大学生)